

【第8章:鎌倉幕府の滅亡と南北朝時代】

<モンゴル帝国の拡大>

①モンゴル帝国

建国:13世紀初め

建国者:チンギス=ハン

出来事:ユーラシア大陸を東西にまたぐ広い地域を支配。
陸上と海上の交通路を整備

②元

建国:13世紀後半

建国者:フビライ=ハン

出来事:都を大都(現在の北京)に移す。
国号を元に変更。
宋をほろぼし、中華統一

<元寇>

①元の勢力拡大

高麗が服属。

宋がほろぼされる。

↓

日本にも朝貢と服属を要求

↓

8代執権北条時宗は拒否

②元寇(蒙古襲来)

1274年:文永の役

結果:元軍の集団戦法や火薬の武器などにより幕府軍は苦戦
→暴風雨により幕府軍の勝利

↓

幕府は次の侵攻にそなえ、石垣(石塁・防塁)を築く

↓

1281年:弘安の役

結果:幕府軍の抵抗や石垣(石塁・防塁)により上陸できず。
→暴風雨により元軍が引き上げ、幕府軍の勝利

③元寇の影響

御家人は恩賞を求めて元軍と戦う

↓

防衛戦のため、恩賞が十分に与えられず、御家人の生活は苦しくなる。

↓

幕府は徳政令を出し、救済をはかる→ほぼ効果なし→御家人だけでなく、商人からも反発を受ける。

<鎌倉幕府の滅亡>

後醍醐天皇が挙兵

目的:幕府を倒して政治の実権を朝廷の手に取り戻す。

→幕府に不満を持つ有力な御家人や悪党を味方につける

御家人	<u>足利尊氏・新田義貞</u>
悪党	楠木正成

→1333年:鎌倉幕府の滅亡

<建武の新政～室町時代>

①建武の新政

1334年: 後醍醐天皇が天皇中心の新しい政治を始める(建武の新政)

→公家重視の政治に武士が不満を持つ→足利尊氏が後醍醐天皇を倒すため挙兵

②南北朝時代

南北朝の争乱: 足利尊氏が挙兵し、1336年に後醍醐天皇を京都から追い出す。

北朝	<u>足利尊氏が京都</u> に幕府を開き、新たに天皇を立てる
南朝	<u>後醍醐天皇が吉野</u> (奈良県)に逃れる

→この二つの朝廷の争いが続いた約60年間を南北朝時代。

<室町幕府の成立>

①室町幕府

1338年に足利尊氏が北朝から征夷大將軍に任命される。

↓

1378年に3代將軍足利義満が室町に幕府を移す。

②守護の成長

幕府が守護に軍事警察犬などの強い権限を与える。

→守護が成長し、一国を支配する守護大名となる

③南北朝の統一

1392年：3代将軍足利義満が南北朝を統一し、争乱が終わる。

④室町幕府の仕組み。
(鎌倉幕府との違い)

管領:将軍の補佐

鎌倉府:鎌倉におかれた役所

